

今年度の主な特徴

地域社会とのつながり

「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という質問に、約7割の生徒が肯定的に答えています。例年のように全国と比べて高い結果となっています（図1）。

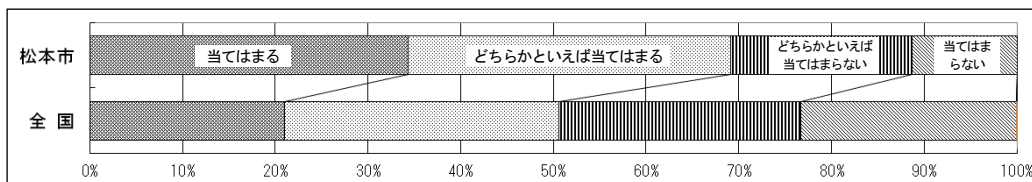


図1 今住んでいる地域の行事に参加している

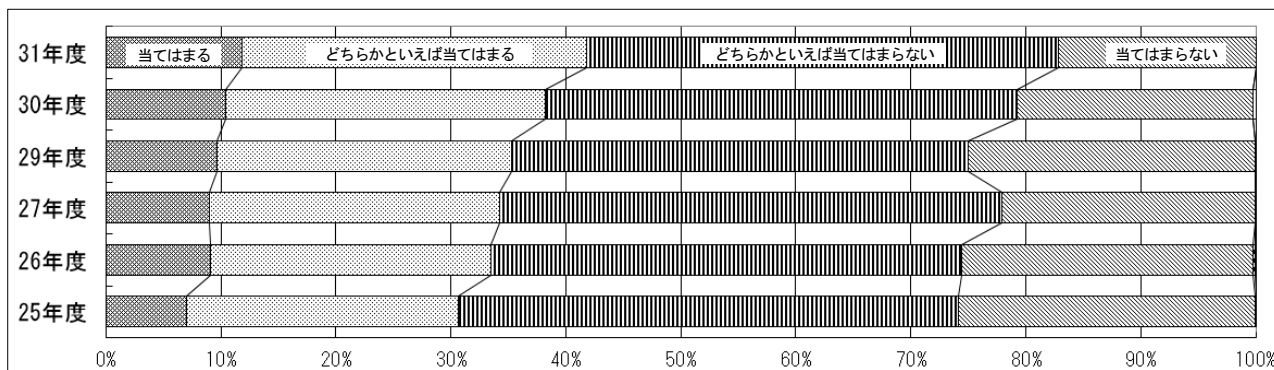


図2 地域や社会をよくするために何をすべきかを考える

「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」という質問に関する経年変化です。肯定的に答えている生徒が6年前に比べて10ポイント高くなりました。松本版コミュニティスクールや総合的な学習の時間における様々な取組を通して地域や社会について考えようとする生徒が育ち、地域行事に関心を寄せる生徒が増加しています。（図2）

先生との関わり

「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」

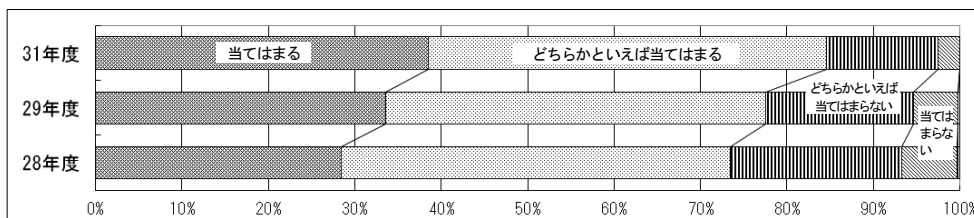


図3 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれる

「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれますか」に肯定的に答える生徒が3年前に比べて10ポイント高くなりました。（図3）授業が「見とどけ」までしっかりされ、本市学力向上推進教員等を活用したティーム・ティーチング、個別指導の充実等が成果として表れてきていると思われます。今後は生徒が更に主体的に学習に取り組み、課題解決に向かっていけるような関わりを大切にしていける必要があると考えます。

学力状況と生活・学習実態との相関関係

読書に対する関心、新聞を読む習慣と正答率

図4は、「読書は好きですか」という質問の回答と各教科の正答率との相関図です。本市中学校の多くは、日課の中に朝読書の時間が組まれており、学級文庫が設置されている学校も多くあります。また、生徒会による図書館利用の呼びかけや、地域との連携による読書

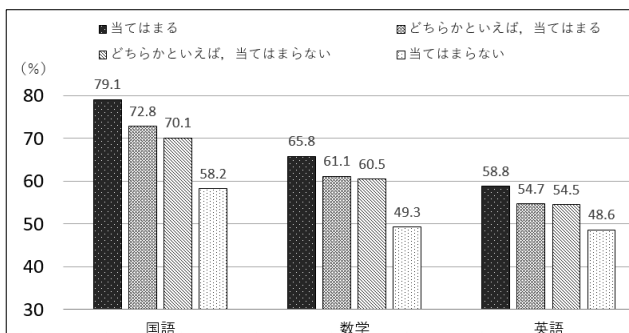


図4 「読書は好きですか」の選択肢毎の平均正答率

ボランティア等の取組も行われています。この質問については肯定的な回答の生徒は全国に比べて9ポイント高くなっています。こうした積み重ねが、生徒の読書に対する関心を高めると考えます。そして、図4からは読書に対する関心が高いほど調査対象の3教科においては正答率が高くなっていることが分かります。中でも国語はその傾向が顕著です。

図5は、「新聞を読んでいますか」の回答と各教科の正答率との相関図です。この質問についても肯定的な回答の生徒が全国に比べて5ポイント高くなっており、先に挙げた読書に対する関心と各教科の正答率との相関図と同じ傾向が見られます。SNS利用が年々低年齢化し、若者を中心に活字離れが社会問題となっている今日において、松本市で地道に取り組んできた読書の時間を大切にする活動が、生徒を読書に誘う入り口となり、活字離れに一定の歯止めをかけていると考えられます。読書への関心の高まりは、活字への抵抗を和らげ、新聞を読む習慣にもつながります。読書や新聞を読む習慣は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにしていく生徒の学びの素地づくりに大きく影響すると考えられます。

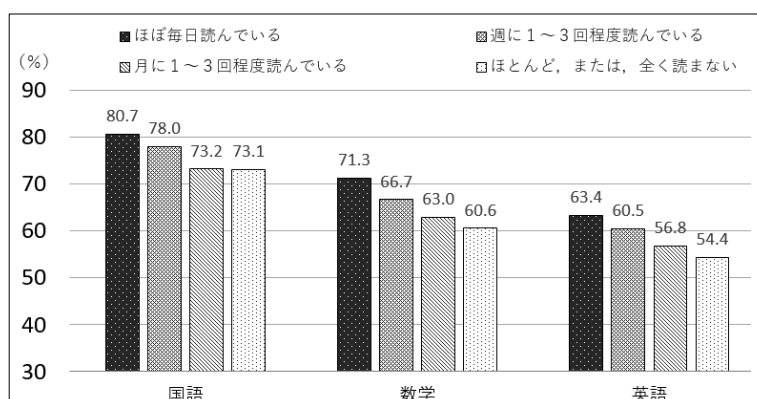


図5 「新聞を読んでいますか」の選択肢毎の平均正答率

朝食をとる習慣と正答率

前年度の中学校の質問紙では、朝食を毎日食べている生徒の割合が過去最低になるなど、家庭での生活に課題が見られました。今年度は、毎日食べていると回答した生徒が、前年度から少し上回りました。これは、前年度の結果を真摯に受け止め、学校、給食センター、PTAが連携し、食育をさらに充実させたことが要因として考えられます。

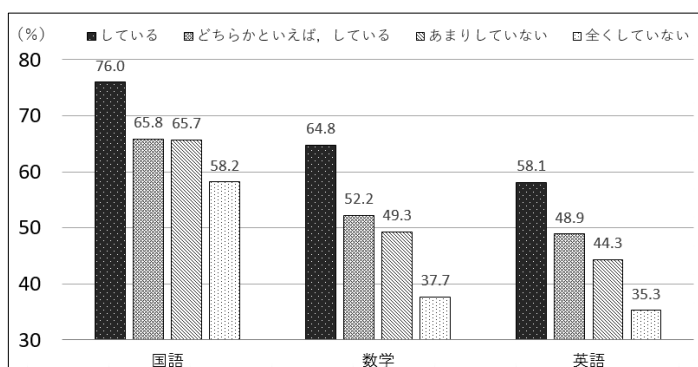


図6 「朝食を毎日食べていますか」の選択肢毎の平均正答率

図6は、「朝食を毎日食べていますか」の回答と各教科の正答率との相関図です。朝食をとる習慣が身に付いている生徒ほど正答率が高くなっていることが調査対象の3教科全てで明らかです。理由はいくつか考えられますが、その一つとして、朝食をとることで基本的生活習慣や生活リズムが整い、学力の向上につながっていると考えられます。

総括

平成30年度調査に続いて今年度も地域社会とのつながりの高さを示しており、松本版コミュニティスクールの充実が大きく貢献していることがうかがえます。一方で、総合的な学習の時間のあり方については概要p9の数値が示すように一考を要する状況といえます。読書・新聞に対する関心の高さから学校・地域の図書館利用の啓発が功を奏していることがうかがえ、関心が高いほど調査対象の3教科における正答率が高いため、今後もその啓発を大切にしていきたいところです。朝食をとる習慣と調査対象の3教科における正答率には明らかな相関が見られます。過去最低であった30年度の反省から、朝食の大切さを啓発してきたことにより改善が見られたといえます。生徒の学力向上について考えるとき、学習面だけに目を向けるのではなく、生徒の学習環境の改善や基本的生活習慣の定着にも目を向けて、総合的に取り組んでいくことが大切であるといえます。